

Journal of Japan Surgical Society

# 日本外科学会雑誌

## Editorial

努力の天才たち

## 会員へのメッセージ

理事長挨拶

## 特別企画

Royal College of Surgeons (RCS) との Joint Meeting を終えて

## 先達に聞く

珠玉の教えに導かれて

## 理想の男女共同参画を目指して

乳腺外科における男女共同参画

## 特集 機能温存を目指した胸部悪性腫瘍手術の現況と将来

特集によせて／部分・区域切除術／肺がんに対する気管支形成術／血管形成術／  
自家肺葉移植術／原発性肺癌における胸壁・横隔膜合併切除術／  
横隔神経—横隔膜の機能再建手術—／胸膜切除／肺剥皮術

## 会員のための企画

「小児内視鏡手術の現在と未来」によせて／小児内視鏡手術の現在と未来／  
医療訴訟事例から学ぶ(91)—カンガルーケア中の事故につき病院側の法的責任が否定された事例—

## 手術のtips and pitfalls

「大動脈弁疾患に対するOpen Surgery」によせて／Aortic root remodeling法／大動脈弁置換術

## 特別寄稿

日本初のフィールドホスピタルでの全身麻酔下手術の報告／女性外科医と夫婦別姓

## 外科専門医試験問題解説

小児分野／乳腺・内分泌分野

平成28年度 定時社員総会報告

## 先達に聞く

### 珠玉の教えに導かれて

日本外科学会名誉会長, NTT 東日本札幌病院名誉院長, 北海道大学名誉教授

田邊 達三

#### I. はじめに

齢 80 歳を超えて歩んできた旅路を振り返り、様々な試練のなかで過ごした日々を思い出しながら貴重な示唆となった珠玉の教えを振り返ってみた。

#### II. 大志の教え

入学した北海道大学 (以下, 北大) では学風として「Boys, be ambitious」が叫ばれていた。Clark 博士が学生に望んだ教訓の真意は lofty ambition 「高邁な大志」の精神であり、「Boys, be ambitious! Be ambitious not for money or not for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be.」であった。明治維新の改革時代において意欲を燃やす若者らに高い倫理観と真理に対する向上心を涵養することを教えた。青春時代にこの教えを学んだことから、今でも Clark 博士の様々な逸話や「都ぞ弥生」の北大寮歌を聞くと、心に響くインパクトとなって自ずと高揚感が湧いてくる。

#### III. 快刀一閃病根を絶つ

初めて北大第 2 外科医局室に入った時、掲げられた太い筆字の「鬼手仏心」と「快刀一閃病根を

絶つ」の額をみて強烈な印象を受けた。この初代柳壯一教授時代から伝えられた格言に深く感動し、一流の刀圭家になるには相当な心技にわたる修錬が必要であり、始まる研修に決意を新たにしていた。当時はまだ気管内挿管麻酔が普及しておらず、この揮毫のように手術の速さを重んじた Billroth 以来のドイツ流 Schnell Operation の時代から、精密、慎重を基本とした Halsted の進めた米国流 skilled operation が癌の廓清や乳幼児手術に応用され始めていた。この二つの外科源流の影響を受けた手術手技を研修するなかで、個々の手術状況に応じて的確に迅速、確実、安全な技を実践できるように修錬を重ねた。

#### IV. 理手無心

入局 7 年目に杉江三郎教授が着任され、消化器外科の診療から新たに心臓血管外科を学ぶことになった。画期的手術の成功が次々に伝えられる心臓血管外科の飛躍時代であり、「追いつけ追い越せ」の気合いで休日無しの「月月火水木金金」の日々を送った。意欲を燃やして午前中は診療、午後から実験、夜遅く診療という厳しい状況のなかで喜んで進展著しい外科を学んだ。杉江教授は世の中の事象はすべて 1 回だけの機会であり、外科手術も「一期一会」の機会と考え、生命尊重の精神で信頼される手術を実践するように諭された。

LOOKING ON THE JEWEL MAXIM

Tatsuzou Tanabe

Honorary President of Japan Surgical Society, Honorary Director of NTT Sapporo Hospital, Emeritus Professor Hokkaido University, Sapporo, Japan

とくに先生は手術の基本精神として「鬼手仏心」の格言から、外科の理論、手法を正しく行使しながら全神経を集中して手術を進める「理手無心」の教えを説かれた。

## V. 一隅を照らす

助教授時代に比叡山の麓で研究会があり、朝方、延暦寺境内を散歩していて偶然に伝教大師最澄の石碑「照干一隅」に巡り会わせた。伝教大師が著述した山家学生式に「室とは道心なり。道心ある人を国宝と為す。一隅を照らす。これ即ち国宝なり。」とある。高邁な宗教の理解は不十分ながら、各自の役割で輝く人は国の宝とする教えと捉え、分担する医療分野に精励して責務を果たすことが医学発展に貢献できると考え、日々の活動に最善を尽くすように努めた。

## VI. 運・鈍・根

教授時代に数学者広中平祐教授の著書「運・鈍・根」を読み、様々な巡り合わせのなかで辛抱強く集中して取り込むチャレンジ精神に大いに共鳴した。この教訓は多くの先輩や管理者などが訓話や著書のなかで語っているが、私も研究、診療に集中して難題にも根気よく取り組みながら努力し、いくばくかの成果を挙げることが出来た自らの経験を振り返り、学生には折にふれて「運・鈍・根」の精神の大切さを話しながら誠心誠意努力するように語りかけてきた。

## VII. 歴史に学ぶ

大学を退職後は外科の歴史に興味を湧き、偉業を達成したパイオニアたちに関わる文献を改めて紐解き、見聞した逸話や伝記を収集してきた。進展著しい医学の最前線の舞台上で送った一生を幸運

と考え、折々に依頼される学術講演や著作のなかで感動した先達の活動を教訓として伝えてきた。苦闘のなかで発想を転換して失敗や厳しい批判にもめげずに挑戦を重ねて、ブレイクスルーからイノベーションへと進められた彼らの活動は科学、技術進歩の原理を示しており、未来を夢みる若者には強いインパクトとなると考え、歴史を学んでいる。

## VIII. よく学びよく遊べ

巡り会った教えの数々を挙げてみたが、矢張り心にゆとりを持つことも大事である。「よく学びよく遊べ」という平易ながら意味深い教えが教室では伝統的に語り継がれ、折々のスポーツが平野聡現教授の下でも人間修錬における切磋琢磨の一貫として続けられている。外科医の育成に当たってスポーツの持つ特別な意義について、熟練手術で有名な心臓外科の巨匠クーリー教授は「学生時代のバスケット、外科生活でのゴルフを堪能した経験から、技を競うスポーツによって技術力、決断力、洞察力が滴養されるので、スポーツは外科医を育てる極めて有効な手段である」と述べている。このコラムで示唆深い教訓の数々を挙げてみたが、何よりも大いなる夢に燃えて新知見に挑戦し、充実の日々を重ねる研修者には折々に心身を伸ばすために気分転換の時間も必要と考える。

## IX. おわりに

最後に付記したいのは、座右の名著としてストレス説の Hans Selye 著「夢から発見」のなかに刻まれた医学研究の面白さとともに、研究の完成に大切な研究者の心得として創意、工夫、忍耐の精神活動を教えられたことである。

利益相反：なし